

トリカブト

西村 悟郎
(人文学部文化学科)

Aconitum

NISIMURA Goro

1. はじめに

トリカブトほど有名な毒草はない。多摩キャンパスでは何年か前に通路沿いの花壇に一株のトリカブトを植えたことがある。秋には青紫色の涼やかな花をつけたが、そのころ「あのような毒草を学生の近くに置くのはよくない」という声が聞こえてきて、あまり人の目に付かない奥まった別の花壇に植え替えたことがある。それほどに日本ではトリカブトが危険な植物であるという認識が広まっているが、一方トリカブトには多くの種が含まれ、花の色も淡青、青、紫、白、クリーム色、白に青の覆輪など変化に富んでいて、それらの花が長い総状に咲く姿は、デルフィニウムにも負けない美しい花壇植物であることはあまり知られていない。日本ではもっぱら秋に山野で花



図1 スコットニー・キャッスル
ガーデンで咲く A. 'Newly Blue'



図2 ポドナントガーデンの
ボーダー花壇で咲くトリカブト

が鑑賞され、また有毒な塊根から離されて切花として用いられている。一方、イギリスの庭園ではボーダー花壇にトリカブトの花をよく見かける(図1, 2)。初夏から秋まで異なる種が次々と咲いて花壇を賑わせている。特に、青色系の総状の花はボーダー花壇には欠かせないものになっている。今回は花壇の植物としてのトリカブトを紹介する。

トリカブト属はキンポウゲ科に属し、北半球の温帯から寒帯に分布し、約300種が含まれる。日本にも30種が自生する。また、中国には100種以上が自生する。和名のトリカブトは鳥兜と書き、花の上部に発達した萼片が兜の形をしているところからその名がつけられている。また、中国名は烏頭(ウズ)または附子(ブシ)で、日本では古事記に附子の名で記載がある。これらの名前は漢方ではトリカブトの塊根を示す語として今日も用いられている。ラテン名は*Aconitum*で、ギリシャ語の「投げやり」を意味するakonから来しているという説や、毒草に付けられたギリシャ名、またはラテン語に由来するなどの説がある。英名はmonkshoodでこれも特徴的な花の形から来している。

トリカブト属に含まれる多くの種が宿根草で塊根を持つ。塊根は有毒であると共に薬用にも用いられる。葉は掌状あるいは鳥足状で深く切れ込む。葉は光沢のある深緑色で、その深みのある緑が背景となって花の色を際立たせる。茎頂に総状、散房状、あるいは円錐状の花序を付ける。花は兜状の1個の頂萼片、2個の側萼片、2個の下萼片からなる。頂萼片の中には蜜を出す花弁があり、それを目指してハチ類が訪れて授粉がなされる。特にマルハナバチは訪問昆虫としては知られている。特異な花の形は昆虫を授粉に導く装置である。

以下、季節ごとにトリカブト属の植物を紹介する。

2. 季節ごとのトリカブト属の紹介

1) 初夏に咲く種類

(1) *Aconitum anglicum* (図3)

イギリスからヨーロッパに原産し、5-6月



図3 *Aconitum anglicum*

に咲く。茎は1mほどの高さに直立する。葉は掌状、裂片は楔形になり、光沢のある深緑色。総状花序をつけ、花茎や蕾は柔らかい毛で覆われる。花の色は藤色で、側萼片の先端が幾分内側に巻き込む。花序の姿は特に目立つものではないが、野生の姿をそのままに残しているところがよい。

2) 盛夏に咲く種類

(1) *Aconitum* 'Newry Blue' (図4)

ヨーロッパ中部に原産する*A. napellus*(ヨウシュトリカブト)を交配親とする。6-8月に咲く。茎は約1.5mで直立する。葉は掌状に深く切れ込み光沢のある深緑色。総状花序に20-30個の花をつける。花



図4 *Aconitum* 'Newly Blue'

色は濃紫青色。図4はウィズレーガーデンで撮ったものだが、花序いっぱい花が咲く姿は同じ時期に咲くデルフィニウムと同様の美しさである。開花時期にはイギリスの各地の庭園で開花が見られる(図1)。

ヨウシュトリカブトは特に毒性が強く、本種の毒にまつわる話はヨーロッパの歴史に数多く出てくるが、今でも庭園で普通に栽培されている。この花の美しさは、毒という危うさと相まって人々の心を捉え続けているのであろう。話は変わるが、日本では厳しく禁じられているケシ(*Papaver somuniferum*)はご存知のようにアヘンの材料であるが、イギリスのハーブガーデンではごく普通に咲いている。カーネーションのように花卉が重なったピンクの美しい花を咲かせる。イギリスでは美しい花壇材料は全てが許されて仲間に入って来るのであろう。

(2) *Aconitum napellum* 'Carneum' (図5)

6-8月咲き。茎の高さ約1m。葉は掌状で5-7深裂、色は光沢のある深緑色。花序の姿は'Newry Blue'に似るが、花茎が幾分細く曲がりやすい。花はトリカブトの仲間では特色ある白に近いクリーム色で、ポー

ダー花壇の中で咲くと、その色合いが周りの花の色を引き立てる。花序が直立する種類では青・紫色系の花が多い中で、クリーム色の本品種は特徴的な色合いである。図5はウィズレーガーデンのボーダー花壇に咲くものである

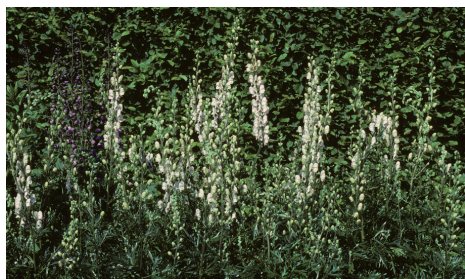


図5 *Aconitum napellum* 'Carneum'

が、通る人が花の前でしばし足を止めて見入るほど珍しいものであった。

(3) *Aconitum* 'Bressingham Spire' (図6)

7-8月咲き。茎は高さ約1mに直立する。葉は3-5深裂し、光沢のある深緑色。総状花序で花が花茎に密につく。花色は光沢のある堇色。本種は花茎が太く、直立していて、花は縦の列状に並ぶ。花色に輝きがあり非常に見栄えのする花序である。このような花序はボーダー花壇の中心に置くのに相応しく、花壇に華やぎのある雰囲気を生み出す。



図6 *Aconitum*
'Bressingham Spire'

(4) *Aconitum* x *cammarum* 'Bicolor' (図7)

7-8月咲き。*A. napellus* x *A. variegatum*の交配種。茎の高さは約1m。葉は3-7深裂し、光沢のある深緑色。総状花序に花が20-30個つく。花は白色で縁に紫色が入る。その配色がこの品種の特色で、日本でも切り花としてよく用いられる。



図7 *Aconitum* x
cammarum 'Bicolor'

(5) *Aconitum henryi* 'Spark Variety' (図8)

7-8月咲き。茎の高さは約1.2m。葉は5-7深裂し深緑色。円錐花序に花がまばらにつく。花の色は堇色。本属では多くの種が総状花序である中、円錐花序が本種の特徴である。花序が横に広がるので、隣り合った花序がこんもりとした集団となる。



図8 *Aconitum henryi*
'Spark Variety'

(6) *Aconitum lycoctonum* subsp. *lycoctonum* (図9) (= *A. septentrionale*)

7-8月咲き。西ヨーロッパからブルガリア、ポーランド原産。茎の高さは1m。葉は5-9全裂し深緑色。総状花序に長さが3cmほどの小型の花がつく。花は頂萼片が長く発達している。色は淡黄色。花は小型であるが多くの花序をつけるので株全体としては多くの花を鑑賞できる。図9はダブリン植物園で本種が数mに伸びてパーゴラ上に広がって、多くの花をつけている。



図9 *Aconitum lycoctonum* subsp.
lycoctonum

3) 秋に咲く種類

(1) *Aconitum carmichaelii* 'Arendsii' (図10)

9-10月咲き。茎は直立し、高さは約1.2m。葉は掌状全裂し、光沢のある深緑色。円錐花序に濃青色の花を10-15個、密につける。側萼片が前方に開き、中心部は白色。ロシアから中国に自生する。田村(1978)によれば日本や中国で薬用や切花用に栽培されているのは、*A. carmichaelii*で、和名はカラトリカブトという。本種に花の形が似てい

て、同じ秋咲きの種に*A. chinense*(ハナトリカブト、トリカブト)がある。種名はキネンシス(中国の意)で中国に自生するが、シーボルト(1796-1866)によって日本で栽培されていたものがイギリスに持ち込まれた。花柄の毛の形で*A. carmichaelii*と区別される。



図10 *Aconitum carmichaelii* 'Arendsii'

3. トリカブトの毒について

トリカブトは日本、中国、アジア諸国、ヨーロッパ、アメリカ大陸などに分布し、それらのトリカブトが自生するところであればどこでも古くから毒草としてよく知られている。

ヨーロッパにおけるトリカブトに関する記載としては、ローマ神話ではトリカブトは冥界の番犬ケルベロスがヘラクレスによって冥界から引き上げられたときに、その口の泡から生じたとされる。紀元前60年ごろのローマで執政官ベスティアは何人もの妻を睡眠中にトリカブトの毒で殺害したという。

また、トリカブトの毒をいかに消すかということについても記録がある。以下はプリニウスの引用であるが、ニンニクは飲んでも食べても毒蛇やトリカブトの毒に効く。ドクニンジンの葉を砕いてブドウ酒に入れて飲めば効果がある。また、エリゲロンは鳥のガンのスープに入れて飲むと他のどれよりもよく効く。混ぜ物をしないブドウ酒も効果がある。パルサムの油を乳に混ぜて飲むと毒消しになる。アンドラクネも解毒剤として用いられる。本当に効果があるかどうかは別にしても、これらの記事によってトリカブトの解毒がいかに人々にとって重要な問題であったかが分かる。

日本では蝦夷のアイヌの人々が狩に毒矢としてトリカブトを用いた。北海道にはエゾトリカブト(*A. yezoense*)、オクトリカブト(*A. japonicum*)、カラフトブシ(*A. sachalinense*)などが分布するが、毒の強さには種間に違いがあり、強烈な毒をもつオクトリカブトが毒矢に用いられた。トリカブトの毒は塊根に多く含まれるが、葉や茎にも含まれ、春の野原の山菜摘みで誤ってト

トリカブトの新芽を摘んで食べ、命を落とすということが時々起こる。一戸（1992）は1932年に北海道の夫婦が朝食に摘んできたトリカブトの味噌汁を食べて、夫が食後3時間後、妻は4時間後に亡くなった時の症状の変化を記した医師の記録を載せている。

1833年に*A. napellus*の塊根に含まれるトリカブトの毒の本態がアコニチンというアルカロイドであることが明らかにされた。その後、エサコニチン（オクトリカブトから）、メサコニチン、アコニフィン（*A.カラコリクム*から）など猛毒性のものから、アチシンなど低毒性のものまで多くの毒性のアルカロイドが明らかになってきている。それらの経口の致死量はウサギではアコニチン、エサコニチンで体重1kgあたり0.05mgである（一戸、1992）。人間に当てはめれば60kgの人は0.3mgが致死量となる。それぞれの塊根にどれだけの濃度の毒物質が含まれているかにもよるが、塊根はごく微量を食べても死に至る可能性がある。葉・茎・花にも少量ながら毒物質は含まれているので、口に近づけてはいけない。

4. 薬としてのトリカブト

前出のプリニウス植物誌にはトリカブトを暖めたブドウ酒に入れて飲むとサソリの刺し傷に効くということが述べており、トリカブトが有毒であると同時に薬としての効果もあることも古くから知られている。中国では後漢から三国時代（1-3世紀）にまとめられた世界最古の本草書である神農本草経に附子（トリカブトの塊根）が新陳代謝を促進することが記されている。日本では古事記に中国から用法が伝わって附子の毒性とともにその利用法も記されている。

現在でも漢方ではトリカブトの乾燥した塊根は附子、烏頭の名で取り扱われている。薬効は新陳代謝機能の回復、利尿、強心、関節の麻痺、痛みの回復、弱った内臓器官の復活などが挙げられる。また、強壯の秘薬などと称する人もいる。トリカブトの塊根はあくまでも猛毒性であるので、その使用量はくれぐれも注意を要する。著名な植物学者白井光太郎（1863-1932）は強壯剤としてトリカブトを用いていたが、服用量を間違えて致死量を超えて飲み、それが原因で亡くなったと言われる。この様なことも起こるのである。

5. おわりに

トリカブトは毒草としてあまりにも有名であるために、日本ではトリカブトの花を一般の花壇で見かけることはほとんどない。多くは切花として栽培され、猛毒の塊根から切り離された状態で観賞されている。それに対して、イギリスでは一般の人の手の届く花壇で、花の美しい多くの種や園芸品種が栽培されており、さらに年々花壇用の新しい品種が作り出されている。青系統の花が総状に連なって咲くトリカブトの花序は、デルフィニウムとともに花壇の主役になりうる。また、日本ではトリカブトは秋の花と思われがちであるが、初夏から咲き始める種類にも立派な花をつけるものが多い。今後、日本の花壇でも各季節に咲くトリカブトの花を普及させたいものである。ただし、やはり毒草であることの認識は必要で不慮の事故は避けたい。

参考文献

- 田村道夫、難波恒雄、(朝日新聞社編) 1978 世界の植物 pp.1627-1630 朝日新聞社
- 一戸良行、(田村道夫編) 1981 日本の植物 pp.32-45 培風館
- 杉山二郎・山崎幹夫 1981 毒の文化史 pp.30-31 講談社
- 魚躬詔一、(朝日新聞社編) 1984 朝日園芸百科 pp.204-206 朝日新聞社
- コーツ、A.M.(白幡洋三郎・白幡節子訳) 1989 花の西洋史 草花編 pp.13-16 八坂書房
- 富樫 誠、難波恒雄、加藤憲一、(小学館編) 1989 園芸植物大事典3巻 pp.441-414 小学館
- 一戸良行、(日本化学会編) 1992 生物毒の世界 pp. 61-82 大日本図書
- プリニウス (大槻真一郎編) 1994 プリニウス植物誌 植物薬剤編 pp.420-423 他 八坂書房
- 英国王立園芸協会監修 (横井政人他訳) 2003 A-Z園芸植物百科事典 pp.74-75 誠文堂新光社
- コーツ、A.M.(白幡洋三郎・白幡節子訳) 2008 花の西洋史事典 pp.300-302 八坂書房